

5月シンポジウム「どっこい!生きてく設楽町」
～持続可能な地域社会の構築に向けて～
のお知らせ



奥三河と言われる当地域は、天竜川・豊川・矢作川の3河川の水源地域です。この地域の森と山を守り、下流域に汚れた水ではなくきれいな水を絶え間なく送る義務と役割を果たしながら、三河湾の海を豊かに育てる事を基本的なスタンスにして、これからのあるべき町づくりを考える、これが私たち「設楽の明日を考える会」の基本理念です。

5月9日に嘉田前滋賀県知事をはじめ河川工学の専門家、海洋学の専門家、環境生物学の専門家諸氏を招いてシンポジウムを開催致します。



【どっこい! 生きてく設楽町】

持続可能な地域社会の構築に向けて

<http://damnation-shitara.jimdo.com/>

◎日時：5月9日(土)

13時30分～16時30分

◎場所：奥三河総合センター 大ホール

愛知県北設楽郡設楽町田口向木屋2-10

0536-62-0100

◎パネリスト (敬称略)

・嘉田由紀子 (前滋賀県知事)

「滋賀県の経験を踏まえて設楽町民に伝えたいこと」

・今本博健 (京都大学名誉教授)

「ダムに頼らぬ豊川の治水」

・鈴木輝明 (名城大学特任教授)

「豊かな海・三河湾と豊川のかかわり」

・市野和夫 (元愛知大学教授)

「自然条件から設楽の町づくりを考える
- 地質地盤問題を踏まえて -」

主題はあくまでも「これからのあるべき町づくりについて」ですが、一方で避けて通れない設楽ダム問題についてきちんと評価を下して、町づくりの前提としてダム本体工事の建設中止の必要性を設楽町民をはじめ流域の皆さん方に考えて頂く事がこのシンポジウムの最大の目的です。

設楽町では現在水没地域住民の移転補償がほぼ終了した段階であります。ダム建設予定地周辺の深刻な地盤問題が持ち上がって来ております。もともと利水・治水においてもその必要性すら問われており、環境破壊の問題も抱える無駄な公共事業の典型と言われる設楽ダムですが、危険なダムならば尚更考え直すべきでしょう。

計画当初は住民の89%にも及ぶ反対署名を集め町議会が全会一致でダム建設反対決議をしておりました。今でも「出来ればダムは作って欲しくない」というのが住民たちの心情だろうと思います。

このような状況でのシンポジウムの開催ですので、なるべく大勢の設楽町及び下流域の住民を集めて、出来れば行政の方々にも幅広くご参加頂いてパネルディスカッションの議論の中身に耳を傾けて欲しいと思っております。

総合司会役には、町内出身でNHK名古屋で番組「さらさらサラダ」のアシスタントを務めていた「さやか結」さんをお願いしており、地元で結束してこのシンポジウムに臨んでおります。

どうか皆さんお誘い合わせの上、積極的に参加して頂きますようお願い申し上げます。

「設楽の明日を考える会」代表 伊藤幸義